

「ちょっと気になる日本語」

(H29. 8. 17 2学期始業式講話から)

若い頃からその傾向はあったんですが、齢を取って偏屈になってきたせいか、日本語の使われ方について少しカチンと来ることが多くなりました。

たとえば、ファミレス。もうけっこう慣れては来たんですが、席に着いて、注文して、料理が運ばれてくると、

「お待ちせいたしました。こちら、チーズインハンバーグになります。こちら、きのこのオムライスになります。ご注文のほう、以上でおそろいでしょうか。」

わかりますか？ 突っ込みどころ満載ですね。

ハンバーグに「なります」？、オムライスに「なります」？ いや、これはもうすでにハンバーグであり、オムライス。これから「なる」わけではありません。

「ご注文のほう、おそろいでしょうか」って、まあ食べ物を粗末にはいけません、ハンバーグやオムライスに尊敬語まで使う必要はない。

最後に、「ご注文のほう」の「ほう」とは何？ これも要らない。

どうです？ うるさい客ですね。もちろん直接言ったことなどありませんが、どうにも気になるのです。

昨今のファミレスの店員さんは、皆とても礼儀正しい。注文が殺到する中、丁寧にてきぱきと、実に鮮やかな仕事ぶりです。だからこそ残念なんですね。客に気を遣うあまり、つい「余計な言葉・間違った日本語」を使ってしまっている。

ファミレスはまだ微笑ましいレベルなんですが、最近かなり耳障りなのが、テレビのアナウンサーとかレポーター。話のプロが、プロでありながら頻繁に使う、不要かつ無意味な言葉があります。それは、

「今日は、行列の出来るラーメン屋を訪問しようと思います。」

「まず、このお店をレポートしたいと思います。」

「では早速、いただきたいと思います。」

どうでしょう。「“思います” じゃないでしょ？ 間違いなくするんでしょ？」と突っ込みたくなりませんか。

この場面で「思います」は要らない。「ラーメン屋を訪問します」、「このお店をレポートします」、「早速、いただきましょう」、これでコト足りるんですね。

さらには、「うーん。これは、美味しいと思います。」などと結ぶレポーターもいます。「美味しい！」でいいじゃないか。

ただ、こうした言い方、僕たちも気をつけなきゃいけない。実を言うと教員は、なぜか「思います」をよく使います。

たとえば、「では、次の問題に行きたいと思います。」要らないですねえ。「次の問題に行きます」、これでいいわけです。

ただ、聞く側としては、「思う」がある場合とない場合で、受ける印象が少し変わります。「思います」は一種の婉曲表現。柔らかくなりますね。だから、授業の緊張感を和らげるために、あえて使う先生もいる・・・かもしれない。

もちろん「思う」という言葉は、それ自体悪いものじゃない。心のうちを表現するときに欠かせない言葉、特に会話の中で必要な言葉です。

しかし一方で、断定をちょっと避けたいときに使える、言わば「逃げの言葉」「ごまかしの言葉」としての機能も持ち合わせている。しかも、「思い」に過ぎないから、確たる根拠がなくても使える。だから、客観的・論理的であるべき「小論文」において使ってはならない言葉とされるわけです。

新しい学年になって4か月半。もう三分の一が過ぎました。皆さん、ここまで逃げることなく正面から、自分の課題に向き合うことができているでしょうか。

この4か月の君たちの姿、勉強でも部活動でも、嬉しくなる場面を沢山見せてもらいましたし、穏やかな笑顔にこちらが癒されることも多かった。

しかし、その一方で、何かしら物足りなさを覚えることもありました。それはもしかしたら、断言する・断定する力というか、困難に挑戦する覚悟というか、そういうものが少し不足しているのではないか。

そう言われて、自分はそうかもと思いついた人に提案。まず、「思います」を捨てることから始めてみませんか。夢や目標をあいまいにせず、婉曲的にせず、覚悟を決めて「●●します」と断言することから始めてみませんか。

たとえば、「将来は医師として地域に貢献したいと思います」ではなくて、「将来は医師として地域に貢献します」、「新人戦では優勝したいと思います」ではなくて、「優勝します」。

どうですか。「思います」を使わない、ただそれだけで身が引き締まります。

どうか皆さん、自ら断言し、覚悟を決めて挑戦する2学期を送ってください。